

ゲームで体験 避難所運営

日赤 日福大生らシミュレーション

日本福祉大(美浜町)と日本赤十字社は9日、災害時の避難所運営を紙上でシミュレーションできるゲームの体験会を、美浜キャンパスで開き、教職員や学生ら15人が参加した。

ゲームは日赤が防災教育



平面図とカードを用いて、避難所運営の在り方を考える参加者。美浜町の日本福祉大美浜キャンパスで

のため、各地で実施している。参加者には被災者に見立てたカードが次々と配布され、避難所となった学校の平面図上に適切に配置していくという内容。カードには被災者の家族構成や住所、持病などが書かれており、それぞれの事情を踏まえてどのような対応が望ましいか、話し合った。

参加者は「ご近所どうしで被災者を集めては」「風邪をひいている人は保健室に案内した方がいいのでは」などと意見を出し合った。見届けた日赤救護・福祉部の中村秀徳さんは「ごみの分別といったルールを定めていくことが大切」などと講評した。体験した教育・心理学部3年の則竹美

憂さん(21)は「共助が大事だと思った。災害時は自分から行動できるようにになりたい」と話した。

両者はボランティア人材

の育成などに向けて連携協定を結んでいる。大学OBで日赤パートナーシップ推進部の相沢達也さんによる講演もあった。(山岸弓華)